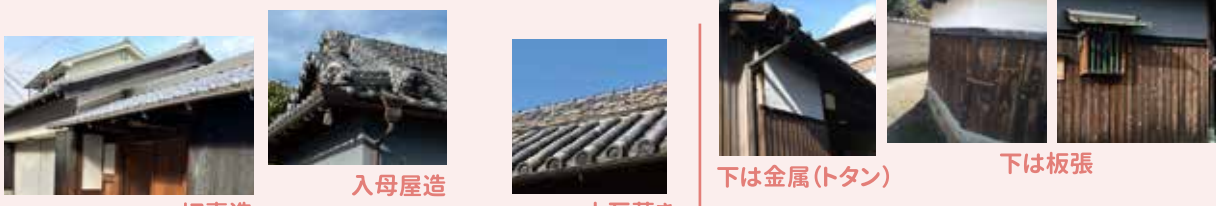


まちあるきで訪れた長屋門は老原、常全、福地地区の計 32 軒。外観を眺めながら「ここは厩かな?」などと間取りを想像したり、何軒かは中を見せていただき、昔の様子を熱く語って頂いたり、楽しいイベントになりました。



約7割が切妻造で、残りは入母屋造。すべてが瓦屋根で、1割程度に本瓦葺きが残っていた。

特徴

屋根

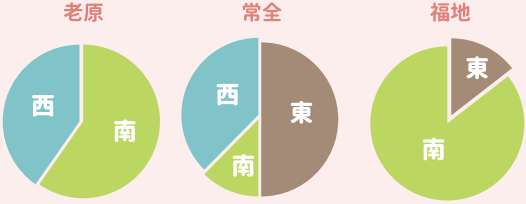
用途



トイレの汲み取り口  
窓のある部屋  
窓がある空間を部屋とみなすことにすると、半数以上は部屋だった。汲み取り口が残っている場所はトイレとわかる。門の横で不自然に途切れてしまったものや、壁がなく車庫に変身したものまでいろいろあった。

向き

各地区で大きく差が出たのが長屋門の向いている方向。老原は南6・西4、常全は東4・西3・南1、福地は南12・東2とバラバラ。長屋門に面した道が老原・常全は南北方向に長く福地は東西方向に長いのか? 老原に東向きがないのはなぜ? 不思議な結果に。



楽しかった! と、うれしい参加者の声も。  
太子地区の母体である昔の家が多くあるエリアを歩き、細部にわたって勉強させてもらいました。  
目的を持ったプラ散歩が楽しかった! 機会があればまた参加したい。  
すばらしい企画! 郷土のみならずまちづくりを考える機会となれば。

門のまわり編

まちあるきで見つけた小さな発見。よく見るといろいろありました!

- 引き戸の潜戸発見!
- 昔の鍵
- 潜戸めっちゃ細い!
- 祝日は国旗掲揚
- ペンガラさんが通る
- 小屋裏は竹がざっぴり
- 屋根編
- 飾り瓦に扇
- 軒樋に咲く一輪の菊
- 桃じゃないよ宝珠だよ
- 軒樋が青竹〜
- 鬼瓦に般若面
- 笑う門には福来る

ナガヤモン?

社会福祉法人あすか会

きしめんがいくら美味しくても、やっぱり揃俵乃糸の方が好き。ひつまぶしって美味いかもしれないけれど、ちょっと贅沢。穴子の方が身近だしね。モーニングがボリューム満点と言われるけれど、太子の喫茶店だって負けてはいない。「ナゴヤモン」について書けと言うのが私のミッションなのですが、名古屋の事はあまり知らない。新しいうちや便利な物に飛びついてしまう。それはいかんのです。

え? 「ナゴヤモン」ではなくて、「ナガヤモン」について書くのですか、これは失礼。「名古屋もん」ではなくて「長屋門」について書くのですね。なるほど。

古い物はね、お金をかけて、手当をしてやれば、本当に価値があるんです。周りを見て下さい。古いけど大切な物っていっぱいあるでしょ。職場の上司とかお父さんとか。加齢臭がするだの、説教臭いだの、そんな事言っ



門をあける

長谷川香里  
納屋工房

大学生のころ、門を開けて部屋でゴロゴロしていたら、帰ってきた父にひどく怒られた記憶がある。髪もとかさずお化粧もせずパジャマのままの私は「人が来て困るやん」と言っただけ、「人がおるときは、もんは開けてくんや!!」と言いつけられた。

今回、編集会議の流れでわが家の長屋門を使ってみることにしました。みんなの協力で、納屋の扉を開けて、厩や井戸の埃を払い、ものが片付き、空気が通って、新しいことを受け入れる準備が整いました。そして、そこに、それぞれのやってみたいの乗っけたら...

門は両扉の内側、真ん中あたりに留め具がついていて、四角い木を横に差し通して閉める。かんぬきという漢字「門」のかたちそのもの。そして、開けた扉は左右の壁に当たるように、丸っぽ

い石で押し止める。とてもアナログな仕組みで簡単に開閉でき、夜には国道の車の音とライトから、台風ときには暴風から守ってくれたりする。

いま、かつて怒られた父はもういないけど、できるだけ家にいる時は門を開けるようにしています。門を開けているということは、ウェルカムです! と伝えること。いつのまにか野菜やお花が井戸端に置いてあってうれしくなることができる、うれしい暮らしです。

編集後記

今号もおつきあいでいただき、ありがとうございました!

- ヘリマネチーム
- siita 編集室
- 岡本 功
- 小林 知子
- 高橋 美佐子
- 松浦りつ子
- 上林 ルミ

「たのしいたいし」へのご意見・ご感想などはこちらへ。気になるネタもお届けください! siita@nayakobo.com

太子のしいたいし

太子町は、有名な観光地も豊かな自然も日本一の○○も、と○○に用いた特徴はないけど、住んでいる人はここが大好きなんです。そんな太子町の魅力をさまざまな角度から探し、○○を反対から読んでみます。ちよと視点を変えて魅力をとくくみつけられるといいなと思って活動しました。

秋の太子 老原・常全・福地を歩く  
長屋門を見に行こう!  
HYOGO TAISHI

専門家・ヘリテージマネージャーに聞く  
長屋門ってなんですか?  
背景にだって、なれちゃうんです  
コスプレと長屋門

まちを歩いて気づいたあれこれ  
太子の長屋門  
カナダ人のマーロンさんに長屋門を見てもらいました  
外国人のとみた長屋門

太子の知られざる魅力、なのかもしれない!

# 長屋門総力特集

冬晴れの日  
長屋門をつかってみた。  
ヨーロッパのアンティークとの競演  
納屋の空間を使ったプロジェクションマッピング  
中庭での食と音楽

令和5年度 太子町提案型協働事業 令和6年3月25日発行 発行人: siita 編集室 (代表 長谷川香里)

長屋門って、なんですか?

上林ルミ・神頭千智・高橋美佐子  
兵庫県(ヘリテージ)マネージャー

長屋門は、諸大名が自分の屋敷の周囲に家臣などを住ませるための長屋を建て、その一部に門を設けたものがはじまりとされています。

江戸時代中期 ▶ 江戸時代後期 ▶ 明治時代以降

城郭や陣屋門、武家屋敷門として生まれる  
庄屋を勤めた農家、町年寄などの町家や寺院にも普及  
一般農家に普及

武家屋敷や侍屋敷では、門と並んで見張りのための番所や、仲間部屋と呼ばれる家臣や奉公人の住居があった。  
番所はなく、主人のお供で来た侍が待機する侍所部屋や、納屋、厩などがある。泥棒や農民一揆から家を守る際にも役立った。  
農業のしやすさや防犯の他、厩や厩を母屋から離すことで類焼から守る目的もあったとか。



太子型?  
農家型長屋門の特徴

門を挟んで一方に居住空間が作られ、トイレや五右衛門風呂があることも、反対側は農機具を置いたり、農作業のための納屋が多かった。小作人を寝泊まりさせたり、機織(はたお)りや養蚕部屋として用いた居住空間は、やがて隠居部屋や貸家として利用され、離農や子世代の転出、主屋の増築などで居住性が薄れ、今では物入や未利用が増えている。

ヘリテージマネージャーの3名は、山崎町と姫路市在住。彼女らの「長屋門、太子にたくさんあるよね」から企画がスタートしました。

農家型長屋門が多く残るエリアに 実際に足を運んで特徴を探しに行くことに...

今回のテーマ「長屋門」は、具体的に存在するものがあるので、これまでの活動とはちょっと違って、研究チームみたいな様相。ただ、夏の暑い期間は、外に出て現地を見に行くのは大変なので、まずは地図アプリを活用して町内に残る長屋門探し。こんなふうに残っている地区が、しかも1箇所だけでなくたくさんあるようです。

そこで、秋になって涼しくなったら、まちあるきがてら見に行くことにしました。一緒に行きたいという人も見つかったので、ちょっとしたイベントに。ただ、どこも民家なので、写真撮影をしたり勝手に入ったりはしないように、調査シートを作って特徴を確認していくことにしました。

に、自宅にいなが町の中を歩いている感じです。図書館で聞いて、太子町史の付録の古い地図に残る地区を重点的に調べたところ、長屋門があちこ

秋の太子 長屋門をみるまちあるき  
令和5年11月23日 実施

